

令和3年度

教育行政執行方針



基本姿勢

新型コロナウイルスの感染拡大が世界中で猛威を振るい、日本でもかつて経験したことのない社会状況となりました。緊急事態宣言による長期休業が明け、やっと再開した学校現場では、新たな問題が山積していました。学校行事の自粛や縮小を余儀なくされ、三密を避け、コミュニケーションがとりづらい一年となりました。

教育大綱は、総合教育会議において、同計画内の「地域全体で教育・学習するまちづ

くり」と決定しました。教育環境の充実、スポーツの振興、文化芸術の振興、生涯学習の推進など、各施策の展開に全力で取り組んでいきます。

また、今後の計画に位置づけられている、小中学校の校舎建設事業に向けた「妹背牛町小中学校校舎建設検討委員会」（仮称）を立ち上げ、子どもたちの健やかな成長を育み、より充実した学校環境を整備するために地域住民参画の下、十分な検討協議を行い、先進地への視察と助言をいただきながら取り組んでいきます。



教育長
石井 美雪

妹背牛町教育目標

1. 命を大切に、明るく活力に満ちた生活を営む人
1. 勤労を尊び、郷土の発展に貢献する人
1. 自然と共生し、住みよいまちを創造する人
1. 豊かな心で、郷土の文化をはぐくむ人
1. 夢と希望を持ち、主体的に学び続ける人

学校教育の推進



学校では、これからの新しい時代の学びを支えるために、一人一台端末の整備をしました。今後のデジタル教科書に向けた実証事業の早期取り組みを行い、子どもたちの学習面で効率的、効果的に使われます。併せて、教職員を対象に研修会をあっせんし、資質の向上に努め、児童・生徒が、多様なネットトラブルの被害にあわないように、情報モラル教育の充実を図ります。

また、小学校では、昨年度から外国語教科が導入され、外国語指導の充実を図るため、A・L・Tの委託業務を継続し、個の英語能力向上を目指します。中学校では、本年度より学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を行い、質の高い学びの実現を図ります。

確かな学力の育成

新しい学習指導要領は、個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本を確実に定着させ、それを基に、自ら学び自ら考える力など、「生きる力」の育成を目指しています。それらを踏まえ学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高めることが大切です。つまずきを早期に発見し、学習支援員を含めた学習指導方法の工夫改善に取り組んでいきます。更に授業は、わかるように丁寧に行い、子どもたちが理解できない時は、いつでも聞ける環境づくりを整えていきます。

また、言語能力は、学習の基礎となることから、調べたこと、考えたことなどについて、「話すこと」や「聞くこと」の基礎能力を育てていきます。更に、低学年からの家庭学習の定着は、学力向上の基本であることから学校と家庭間の連携強化を目指します。

信頼される学校づくり

社会の変化を背景に、子どもたちの様々な活動が縮小される中、発達段階や特性などに応じて、多くの体験活動を行うことが大切です。喜びや悲しみ、失敗を乗り越え、時には反省をし、少しずつ人格を磨くことで、他者を思いやる心や感謝の気持ちが育まれてゆきます。学校行事、教育活動、更に道徳教育を通して、豊かな心の育成に取り組んでいきます。

また、人権を無視したいじめや誹謗中傷は、決してあってはならないことです。本年も「妹背牛町仲間づくり小中合同交流会」を開催し、児童・生徒の交流と絆を深め、いじめ根絶に向けた目的を共有していきます。

併せて、スクールカウンセラーに加え、スクールソーシャルワーカーの招聘による教育相談体制の充実と支援を図っていきます。

健やかな体の育成

近年、子どもたちの生活習慣の乱れが指摘されています。本町でも朝起きられない児童・生徒が増加傾向にあります。早寝早起きの習慣への啓発と安全・安心な学校給食を通して食育の充実を図り、健やかな体の育成に努めます。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、継続実施し、発達段階に応じた体力づくりに取り組んでいきます。更に、少年団活動や中学校部活動への支援を継続していきます。

豊かな心の育成

子どもたちにとって学校は、「明るく楽しい学校」でなければなりません。教員一人一人が高い倫理観を持ち、子どもたち個々の多様化する実態を踏まえ、指導力を発揮することが重要です。各学校では、教育目標を掲げ、教職員一丸となり学校運営に努めてきました。今後とも一層改善、充実に努めていきます。

地域に開かれた学校づくりでは、地域と連携して子どもたちを育むコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を継続実施していきます。また、児童・生徒、保護者アンケートを実施し、意見と要望の集約・分析を行い、学校の実態把握と改善を図っていきます。

特別支援教育

個別の支援を必要とする児童・生徒が増加している中、保健福祉や医療など関係機関と連携し、きめ細かな情報共有と支援体制の構築に努めていきます。

また、小学校では、通級指導教室を継続し、個々にあった指導内容を担任と連携しながら取り組んでいきます。更に、支援職員を配置し、子どもたちの手助けをしながら、充実した学校生活が送れるように努めると共に、中学校では、通級指導教室の開設に向けて、教員の配置を要請していきます。

社会教育の推進



コロナ禍により人間関係が、益々希薄化する中で、創意工夫をしながら「うるおいに満ちた活力ある地域を創造する社会教育の推進」を目指していきます。

生涯学習につながるように、様々な事業を展開し、学習機会と体験活動の提供を行っていきます。

そして、自己の人格を磨き、人生が豊かに過ごせるように、多様なニーズに応えられる事業を推進していきます。

社会教育事業

子どもから高齢者まで、生涯が豊かに過ごせるように、様々な学習機会の提供と魅力ある事業展開を工夫していきます。国際交流事業では、外国人との交流を通して、異国文化に触れ、他国の言葉や料理を含めた人事交流の場を提供していきます。

幼少期から絵本や読書に触れることで、感受性を高め、語彙や読解力、豊富な知識が育まれるように努めていきます。また、子どもたちには体験活動を通して、規律を守る大切さ、集団活動での楽しさ、難しさを経験し、社会へつながるように工夫していきます。

社会体育事業

人生100年時代に突入し、いつまでも元気で生活できるように、創意工夫しながら事業を展開していきます。青空の下、景観を眺めながら行うウォーキングや気軽に楽しめるLet'sスポーツの開催、そして、誰でも参加できるように、山岳連盟と協働し、町民登山を計画しております。これからの人生を心身ともに健康で豊かに過ごせるように、体力づくりの増進を図っていきます。

芸術文化事業

芸術文化は、人々の心にゆとりと豊かさをもたらします。それらが人間関係に調和と思いやりを与え、相互に理解し合い、尊重し合える礎となります。映画上映会の開催や芸術鑑賞会の幹旋、保育所の幼児から児童・生徒及び町民が作成した作品を展示し、芸術文化と触れ合える機会と異世代交流を深める場の提供をしていきます。

